

自動認識システム大賞「特別賞」

テーマ

RFIDを用いた書籍の販売条件識別

技術分野：RFID

申請会社：株式会社小学館

共同申請会社：昭和図書株式会社

共同申請会社：株式会社数理計画

ユーザ企業：株式会社小学館

システムの概要

出版業界は、委託販売制^{*1}を基本的な商習慣としてきたが、長引く出版不況の中で、その見直しを迫られている。中でも責任販売制^{*2}は複数の出版社・取次会社から提案され、実施されているが、普及しているとは言い難い状況にあった。

小学館では、責任販売制を普及させる方法として同一アイテムの中で委託販売制と併用することを検討してきた。しかしながら、要求される物流の速さやコストの面からバーコードなど従来の技術では販売条件の識別は難しいとされた。そこで、問題解決のため、RFIDを用いた販売条件の識別システムの開発を行った。現在、このシステムを用いた販売条件併用書籍は4タイトルまで広がっている。

*1 委託販売制：売れ残った商品を返品できる販売制度

*2 責任販売制：書店に高マージンを約束する代わりに、返品に一定の制限を設ける販売制度

システムの特徴

- 一般商品へのRFIDのソースタギング
- RFIDによる販売条件識別
- 複数企業での運用
- RFID未導入企業も参加可能（目視による識別も可能）

販売条件併用の成果（新版 家庭医学大事典の場合）

書店においては、販売条件を併用できる事から、委託販売制商品で売れ残りに対するリスクコントロールを行いつつ、責任販売制の高マージンによる収益向上を目指すことができた。

出版社サイドでは通常の返品率を大きく下回る5%未満の返品率を達成し、返品コストの削減を実現した。さらに、リスクをとりつつ高収益を目指す書店と責任販売の高リスクを嫌う書店の両者から注文を取り付けることで増売も達成した。

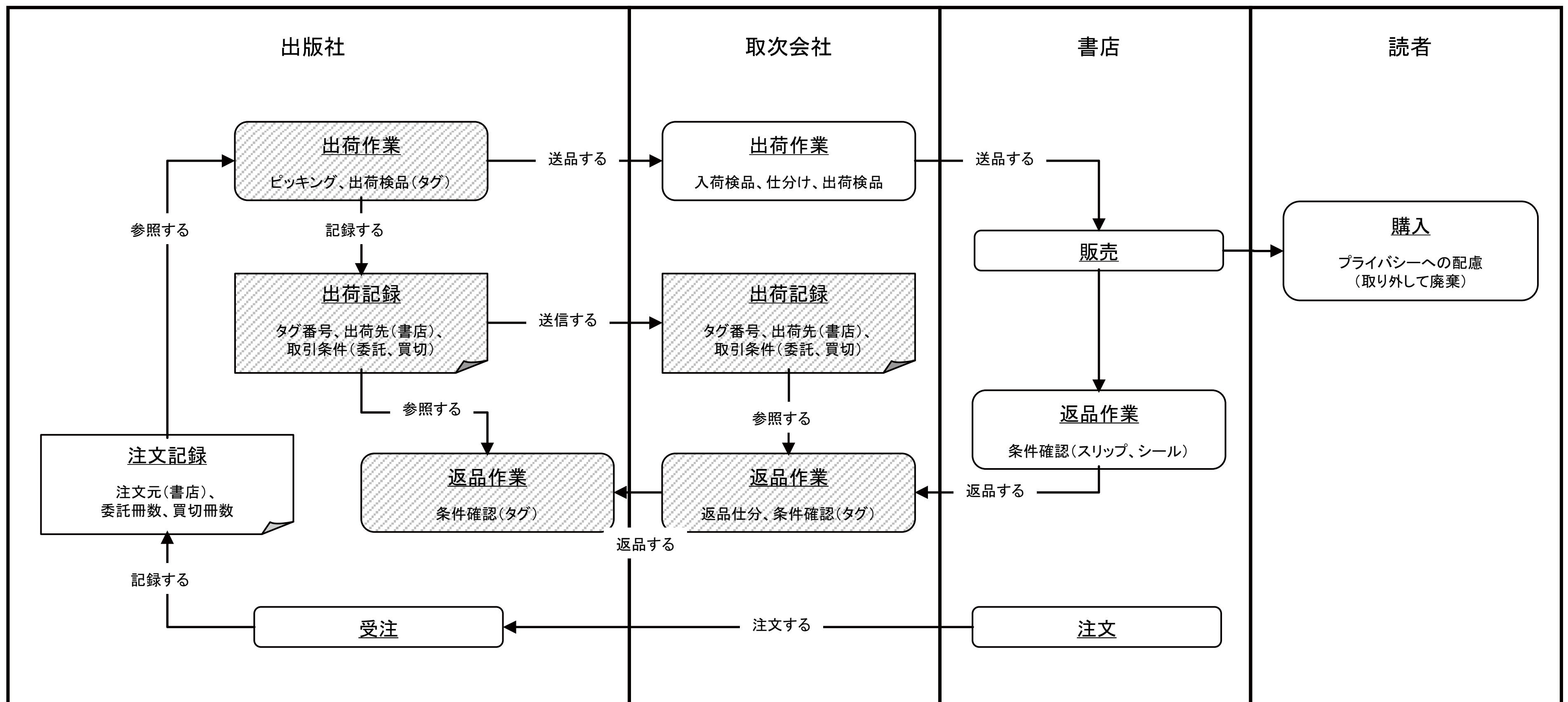
《大幅な返品の減少》

- 責任販売制書籍の返品率約4%
- 委託販売制書籍の返品率約10%
- 全部数に対する返品率約5%

《企画当初の想定部数を大きく上回る発行部数》

- 企画当初の想定部数40,000部 → 現在の発行部数75,000部
- 責任販売制56,000
- 委託販売制19,000

システム全体図



作業風景



RFタグの装着(若林製本工場)



出荷履歴の登録(昭和図書)



RFIDによるレジ処理(東京堂書店)



返品処理(栗田出版販売)

広がる「販売条件併用」対象書籍



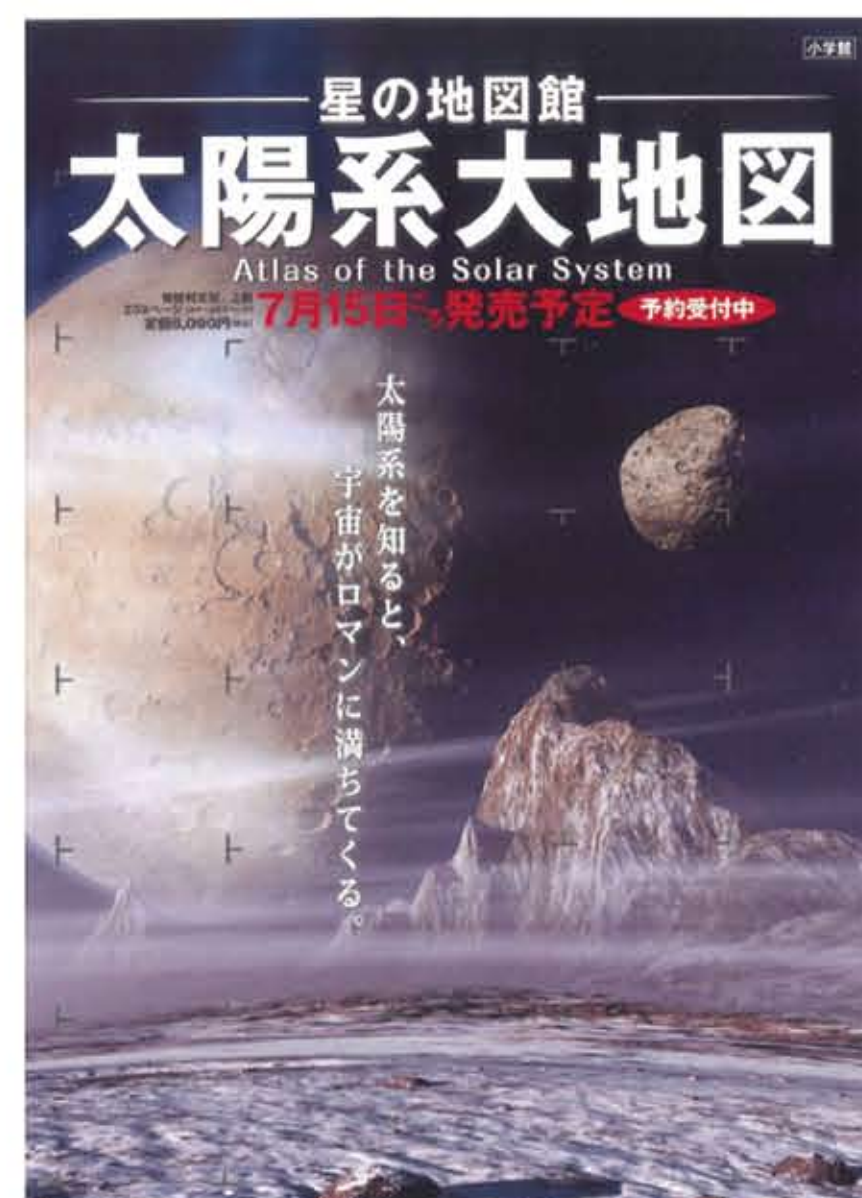
ホーム・メディカ 新版 家庭医学大事典
 発売日 2008年11月19日
 ISBN 978-4-09-304504-9
 定価 6,825 円 (本体6,500 円)



脳で旅する日本のクオリア
 発売日 2009年7月8日
 ISBN 978-4-09-387855-5
 定価 1,575 円 (本体1,500 円)



小学館の図鑑 NEO+ くらべる図鑑
 発売日 2009年7月8日
 ISBN 978-4-09-217231-9
 定価 1,995 円 (本体1,900 円)



星の地図館 太陽系大地図
 発売日 2009年7月15日
 ISBN 978-4-09-526079-2
 定価 6,090 円 (本体5,800 円)

《2009年11月刊行予定》



小学館 世界大地図
 発売予定日 2009年11月27日
 発売記念特価 16,800 円 (本体16,000 円)